

## 大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

## ■ 来賓あいさつ

**松野博一**（文部科学大臣） 代読：常盤豊・文部科学省高等教育局長

本フォーラムの開催にあたりまして、一言ご挨拶させていただきます。まず、本日のフォーラムが多数の方々の参加を得て盛大に開催されることにつきまして、心よりお喜びを申し上げます。また、本フォーラムの主催者である読売新聞社の皆さま方、各分野で活躍されている本日ご登壇の皆さま方、さらにご聴講の皆さま方におかれましては、日頃より、我が国の教育の発展にご尽力を頂き、厚く感謝申し上げます。



さて、現在の我が国を巡る国内外の状況につきましては、グローバル化の進展、生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、産業構造の転換、地方創生への対応等、様々な変動が生じているところであります。こうした時代において、我が国で学ぶ子どもたちは、明治以来の近代教育が支えてきた社会とは質的に異なる社会で生活し、仕事をしていくことが必要になって参ります。このため、こうした変動に対応する観点からは、知識の量だけではなく、自ら問題を発見し、他者と協力して解決していくための資質や能力を育む教育が重要となって参ります。

このような問題意識のもと、安倍内閣におきましては、最重要課題の一つとして、教育改革を推進しているところでございます。本フォーラムのテーマである高大接続改革につきましても、教育再生実行会議や中央教育審議会等の場において、議論が重ねられてきたところであります。そして、これらの提言、答申等において指摘されておりますように、予見困難な未来を生きる子どもたち1人1人にとって必要な能力として、いわゆる学力の三要素の育成が重要となります。

具体的には、①十分な知識・技能、②それらを基盤にした思考力・判断力・表現力、③これらの基となる主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度、こうした学力の三要素を育成・伸長していく観点から、高大接続改革に取り組んでいる所です。この高大接続改革につきましては、単に大学入学者選抜改革のみならず、高等学校教育改革、大学教育改革も含めて、これら三者の一体的な改革を図っていくことを本旨とするものであり、2つの新テストをはじめとして、国民の皆さま方の関心が高い課題であります。

文部科学省におきましては、各課題の検討状況を先月末に公表いたしましたでしたが、新テストの実施方針の策定等に向けてさらに検討を尽くすべき点が種々ございます。そのため、今後とも関係の皆さま方のご意見をしっかりと聞きながら、着実かつ丁寧に取り組んでいく必要があると考えております。また、高大接続改革は、我が国の未来に決定的な影響を及ぼす課題でもありますので、関係の皆さま方におかれましては、引き続き、ご理解、ご協力のほどをお願い申し上げます。

最後になりますが、本日のフォーラムにおいて、各報告者やパネリストの皆さま方により、活発なご議論等が行われ、また、ご聴講の皆さまにとっても、実り多いものとなりますことを祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

平成 28 年 9 月 25 日 文部科学大臣 松野博一 代読。